

伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会
情報交換会 (2020.12.7)

環境省 地域循環共生圏プラットフォーム事業採択事例紹介

おわせSEAモデル構想の実現

～発電所跡地を活用した“持続可能”な社会実現のための地域モデルの構築～

おわせSEAモデル協議会

尾鷲市政策調整課

課長補佐兼企画調整係長 濱田 一多朗

尾鷲市及びおわせS E Aモデルの紹介

三重県尾鷲市の成り立ち

- 昭和29年6月、尾鷲町と九鬼村、北輪内村、南輪内村、須賀利村の1町4村が合併し、現在の尾鷲市となりました。人口のピークは、昭和35年の34,534人で、以降減少の一途を辿っており、現在は約半分の人口となっています。



尾鷲市の概要

市制施行日：	昭和29年6月20日
行政面積：	192.71km ²
（うち 森林面積）	177.03km ² （約90%）
人口（12月1日現在）：	17,228人
高齢化率（65歳以上）：	44.1%



尾鷲市の位置図



- 尾鷲市は三重県南部に位置し、大台山系を背に、前面は太平洋(熊野灘)を臨む、リアス式海岸の入り江の奥にある海と山に囲まれた自然豊かな風光明媚な地域です。

尾鷲市へのアクセス

●広がりつつある高速道路網

日本最大の半島である紀伊半島は、自動車専用道の整備が遅れている地域でしたが、平成25年に名古屋ICから尾鷲北ICまで繋がり、都市部からの移動時間が、飛躍的に軽減されました。



尾鷲の資産

海

- ✓ 豊富な魚種
- ✓ 多様な漁法
- ✓ 鮮魚、ヒモノ



定置網・底引き網の漁船漁業及びマダイ・ブリ等の海面養殖漁業が盛んで、魚市場には、**豊富な魚種**が水揚げされています。



また、新鮮な魚を素材に、職人の技が作り出す地域を代表する特産品があります。



ヒモノは、代々引き継がれた各店舗特有の加工技術、味付けなど、どの店舗もそれぞれのこだわりをもっているものばかりです。



「生節」や「からすみ」、梶賀町に伝わる「あぶり」など、この地域ならではの加工品もたくさんあります。

山

- ✓ 市面積の約90%が山林
- ✓ 日本一の雨量
- ✓ 「尾鷲ヒノキ」



江戸時代の紀州藩が手掛けたとされる植林山があり、**年間4,000ミリを超す雨量**と急峻な地形で育てられた「**尾鷲ヒノキ**」は、強度とツヤが高い評価を受け、柱材を中心に全国へ流通しています。



高品質なヒノキを持続的に生産する技術や、海岸線まで植林されているなど、地域独自の伝統的な林業が営まれてきたことが評価され、「**日本農業遺産**」に認定されています。



『G7伊勢志摩サミット』の首脳会議円卓などに「**尾鷲ヒノキ**」が利用されました。

遺産

- ✓ 世界遺産 熊野古道



熊野古道は、熊野三山（熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社）に詣でるための道です。



伊勢神宮から熊野三山への伊勢路は、世界遺産として登録されている「紀伊山地の霊場と参詣道」を構成する参詣道のひとつです。



そのうち、尾鷲市には、4つのコースの峠が世界遺産として登録されています。（馬越峠、八鬼山越え、三木峠羽後峠、曾根次郎坂・太郎坂）

尾鷲の風景



さばる
朝の尾鷲湾（佐波留島）



尾鷲市と中部電力(株)による地域協定の締結

- 1964年（昭和39年）から約半世紀にわたって操業され、当地域の経済のけん引者であった中部電力(株)尾鷲三田火力発電所が廃止となることを受け、尾鷲市と中部電力は、新たに地域の活性化に努めていく内容の「地域協定」を、2018年（平成30年）5月25日に締結いたしました。
- 発電所跡地である63万4千㎡の広大な敷地を、エネルギー地産地消を中心とした、新しい地域活性化モデルを推進するスタートとなりました。



（地域協定調印式）



（調印式関係者との記念撮影）

中部電力尾鷲三田火力発電所跡地と揚油栈橋



出典：国土地理院ウェブサイト <https://www.gsi.go.jp/>
空中写真データをもとに、おわせ S E A モデル協議会が加工して作成

おわせSEAモデル協議会の設立

- 「地域協定」では、活性化の検討を進める協議体を設立するとしていることから、2018年（平成30年）8月24日に、協定締結者の尾鷲市、中部電力に加え、地域産業振興のけん引者である尾鷲商工会議所を含めた3者に、三重県、三重大学をオブザーバーに迎え、「**おわせSEAモデル協議会**」を設立いたしました。
- おわせSEAモデルの「S・E・A」は、市民サービス・文化・観光部門の「S」、エネルギー部門の「E」、そして、アクア・アグリカルチャー部門の「A」とし、その3つを組み合わせました。
- 「S・E・A」の部門は、各々プロジェクトを組織し、具体的な検討を部会により進めることといたしました。



（おわせSEAモデル協議会発足式）

市民等からの意見・提案（グランドデザイン策定時）

プロジェクト	用途分類	ご意見・ご提案のまとめ（抜粋）
S	スポーツ	テニスコート、野球場、サッカー場、体育館、屋根付グラウンド、温水プール、スケボー、BMX、ボルタリング、ランニングコース、クロスカントリー、シャワー施設整備、レーシングカート場
	アクティビティ／レジャー	テーマパーク、屋内キッズパーク、おもちゃ館、屋根付イベント会場、釣り桟橋、檜シンボル館、雨のテーマ館、バンジージャンプ、避難兼展望台
	宿泊／リラクゼーション	各種キャンプ施設、グランピング、宿泊施設、別荘、温泉施設、巨大足湯、温水利用、憩いの場づくり
	公園	多目的公園、森林公園、散歩道、広場、松原海岸再現、ドッグラン、あずま屋、巨大滑り台
	観光	観光バス受け入れ、トイレ整備、駐車場整備、煙突シンボル化、ヨットハーバー
	教育	大学・高校との連携、研修施設、図書館、博物館、発電所記録館、ネイチャーセンター
	国等の施策誘致	飛行場、ヘリコプター場、海上自衛隊、海上自衛隊宿舎、燃料補給基地、大型客船接岸、自動輸送システム、競馬・競輪サテライト、空飛ぶ自動車試験拠点
E	エネルギー	木質バイオマス発電、小規模水力発電、広域ごみ処理施設推進、電力自給率100%の尾鷲
A	陸上養殖	あわび・タツノオトシゴ、ナマコ養殖、海ぶどう養殖
	農園	市民農園、一坪農園、温野菜の栽培、畑整備
	商業施設	ショッピングモール、尾鷲まるごと物産展開、魚・干物販売エリア、飲食店、野菜販売所
	工場誘致	ジビエ加工施設、ペットフード工場、魚粉工場、魚料理研究所、深層水活用
	漁港	尾鷲漁港移転、魚市場整備
その他	その他	20m級の丘、現状復旧(更地)

おわせSEAモデルブランドデザイン（2019.3.22）



1. コンセプト

ルネサンスとは、フランス語で「再生」であり「再興」。過疎高齢化に悩む「ふるさと尾鷲」を、新たなエネルギーと豊かな自然の力を借りて、今一度復活させる。

ふるさとエネ・ルネサンスOWASE

集客交流人口拡大

「S」

S E R V I C E

サービス・コンテンツの充実で
市民も観光客も楽しめる場所へ。

新たなエネルギーの活用

「E」

E N E R G Y

再生可能エネルギーを活用した
新たなエネルギー発生基地へ。

働く場所・雇用の創出

「A」

A Q U A / A G R I C U L T U R E

産業の恵みと新たなエネルギーの
有効活用で新ビジネスの創出へ。

S

E

A

***** 住民・観光客 *****

憩いの場の創出

「暮らし・癒し」・「食(さかな)」・「自然・まなび」

尾鷲の魅力である「自然」、「食」を軸としたうえで、
暮らす人々の憩いの場・学びの場づくりと集客ター
ゲットに合せた新たな切り口による魅力を最大化



S

E

A

***** 企業 *****

新たな産業・サービスの創出

「エネルギー」「循環」「ビジネス」

木質バイオマス発電、広域ごみ処理施設から得られる
熱を中心とした「地産地消エネルギー」で、「新たな産
業・サービス」を創出し、地域活性化に寄与



S、E、A各々が内包している魅力的要素を抽出しPR

各施策イメージ（S：サービス）



3-1. 各施策イメージ（S：サービス）

用途	イメージ	検討・実施主体	事業開始目安	方向性
釣り桟橋		尾鷲市 (事業パートナー)	2022年 	堀油桟橋を改修し、全長では日本最大級となる釣り桟橋とする。尾鷲に新たな釣りのフィールドを設けることで、太公望はもちろん、ファミリー、カップルなど、子供から大人まで安心して気軽に楽しむことができる、新たな「賑わいの場」を創出することを目指し検討する。
運動施設・公園		中電グループ ・ 尾鷲市	2022年 	施設全体との調和の中で、安全・安心に既存の野球場、テニスコートなどの運動施設を継続的に開放することで、爽やかな汗を、また、キッズパーク、散歩コースなど子供からお年寄りまでのんびりくつろげる市民の「憩いの場」を創出することを目指し検討する。
教育・体験学習		尾鷲市 (事業パートナー)	2023年 (部分開業) 	第一次産業（陸上養殖・植物工場）はもちろん、開発エリア全体で創出されるあらゆる産業を教育・体験の視点で繋ぐことにより、市内の児童・学生はもちろん、市外からの学生を呼び込む「フィールド教育の場」を創出することを目指し検討する。
アクティビティ		尾鷲市 (事業パートナー)	2023年 	尾鷲の自然を満喫する、子供から大人まで楽しむことができるアクティビティ（ウォーキング・カヤック・サイクリングなど）を核とした「着地型観光の拠点」を創出することを目指し検討する。
宿泊施設		尾鷲市 (事業パートナー)	2023年 	釣りで、運動施設で、アクティビティで満喫した後は、非日常的な快通空間のグランピングで、また、内装に尾鷲ヒノキを活用した拡張性のあるコンテナハウスで、そして疲れを癒す温浴施設により「癒しの場」を創出することを目指し検討する。
PoC（実証実験）		尾鷲市 (事業パートナー)	2023年～ (順次)	変わり続ける時代の流れに取り残されることなく、少子高齢化、過疎化の進展が著しい地域に合ったPoC（実証実験）を行うことができる「産業創出の場」を創出することを目指し検討する。
企業誘致		市・商工会議所・中電 (誘致企業)	2023年～ (順次) 	尾鷲市、尾鷲商工会議所、中部電力の3者が協力し、企業にとって魅力ある開発地訴求を実施することで、開発コンセプトに合致した企業誘致を行い、新たな「雇用創出の場」を目指す。

※2019.3.22グランドデザイン策定時の施策イメージです。

各施策イメージ（E：エネルギー／A：アクア・アグリ）



3-2. 各施策イメージ（E:エネルギー）

用途	イメージ	検討・実施主体	事業開始目安	方向性
広域ごみ処理施設		東紀州5市町	2026年	東紀州5市町の広域ごみ処理施設を整備し、そこから発生する熱を中心としたエネルギーを陸上養殖、植物工場などの一次産業への有効活用を図ることで、新たな産業を創出する。
木質バイオマス発電		中電グループ	2024年 	周辺地域の間伐材等を活用し、木質バイオマス発電を行うとともに、そこから発生する熱を中心としたエネルギーやCO2などを一次産業および誘致する企業に利用することを目指し検討する。
太陽光発電		中電グループ 	2024年	導線的に有効活用が難しいスペースや遊休エリアを活用して太陽光発電施設を設置し、エリア内における誘致企業等へのクリーンで安価な電力供給を検討する。

3-3. 各施策イメージ（A:アクア・アグリ）

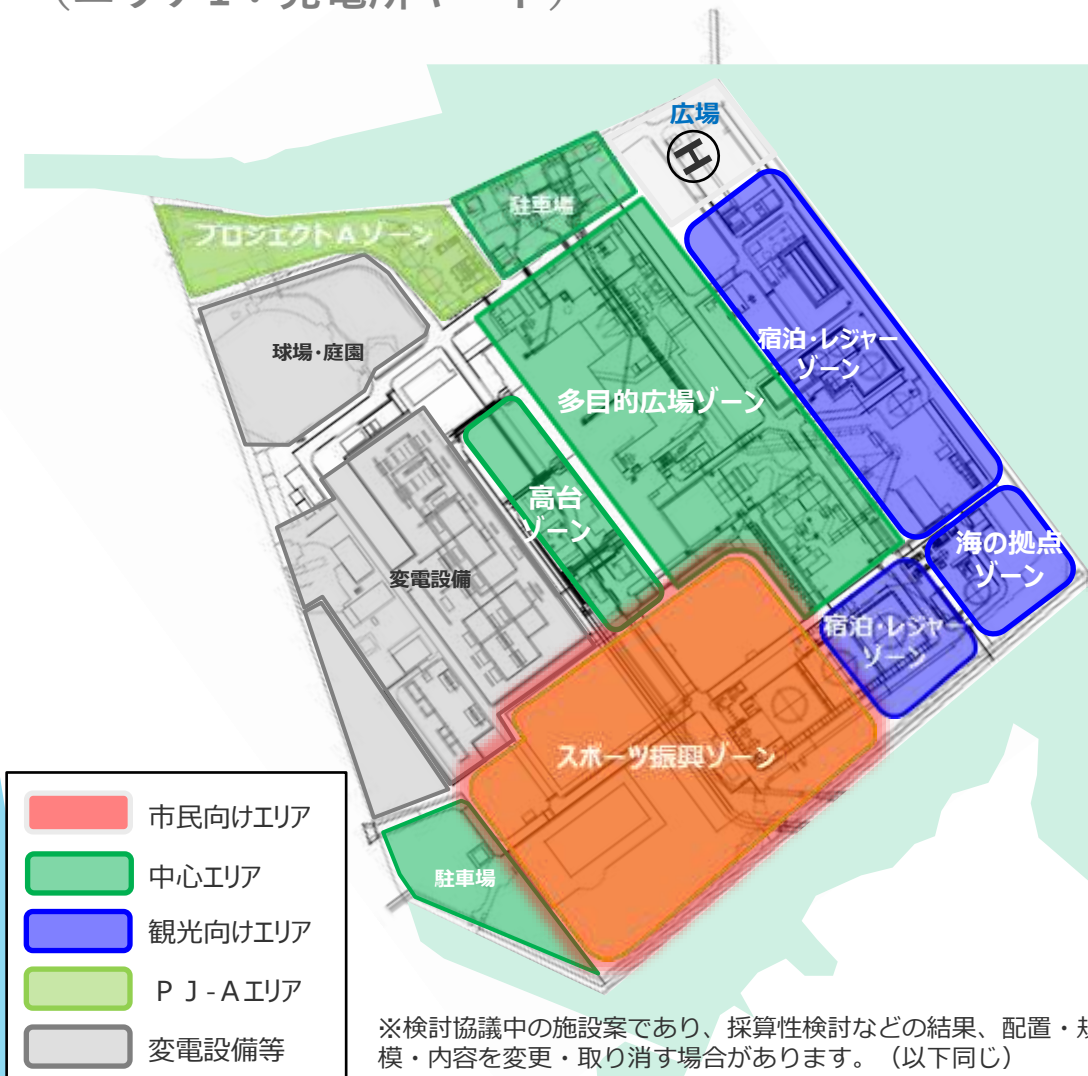
用途	イメージ	検討・実施主体	事業開始目安	方向性
陸上養殖		尾鷲商工会議所 (事業パートナー) 	2023年 (部分開業)	広域ごみ処理施設や木質バイオマス設備などで発生する排熱を活用した屋内型施設による陸上養殖を行う。地域資源となり得る魚介類及び藻類等の養殖を目指し検討する。
植物工場		尾鷲商工会議所 (事業パートナー) 	2023年 (部分開業)	広域ごみ処理施設や木質バイオマス設備などで発生する排熱やCO2などを活用した次世代型施設園芸を行う。高付加価値が期待できる農産物の栽培を目指し検討する。
飲食・商業施設		尾鷲商工会議所 (事業パートナー) 	2023年 (部分開業)	市民や観光目的で訪れる来訪者まで広く活用される施設および集客交流拠点として、地元企業を中心に誘致・建設することを目指す。 また、釣り桟橋やグランピングなどとのシナジー効果を期待し、その場での調理や提供など、レストラン（飲食）の誘致も検討する。

※2019.3.22ランドデザイン策定時の施策イメージです。

※広域ごみ処理施設建設場所は、現在、SEAモデル構想とは別の場所(現市営野球場)で検討しています。

発電所ヤードエリアプラン（2020.11.5時点）

（エリア1：発電所ヤード）



※検討協議中の施設案であり、採算性検討などの結果、配置・規模・内容を変更・取り消す場合があります。（以下同じ）

ゾーン	施設案（※検討協議中）
スポーツ振興ゾーン	市民球場
	テニスコート
	多目的スポーツ芝生広場
	合宿施設
広場	防災広場・ヘリポート
多目的広場ゾーン	緑地・キッズパーク・イベントスペース
	飲食・物販施設
	マルシェ（産直市場・飲食）

釣り桟橋ゾーン

高台ゾーン	築山（憩いの場・防災機能）
宿泊・レジャーゾーン	グランピングサイト・キャンプ場
	バーベキュー場
海の拠点ゾーン	アクティビティの拠点
	シーカヤック・サップ
	飲食・物販施設
釣り桟橋ゾーン	釣り桟橋（海釣り）
プロジェクトAゾーン	陸上養殖施設（海ぶどう、その他藻類）

第1・第2ヤードエリアプラン（2020.11.5時点）

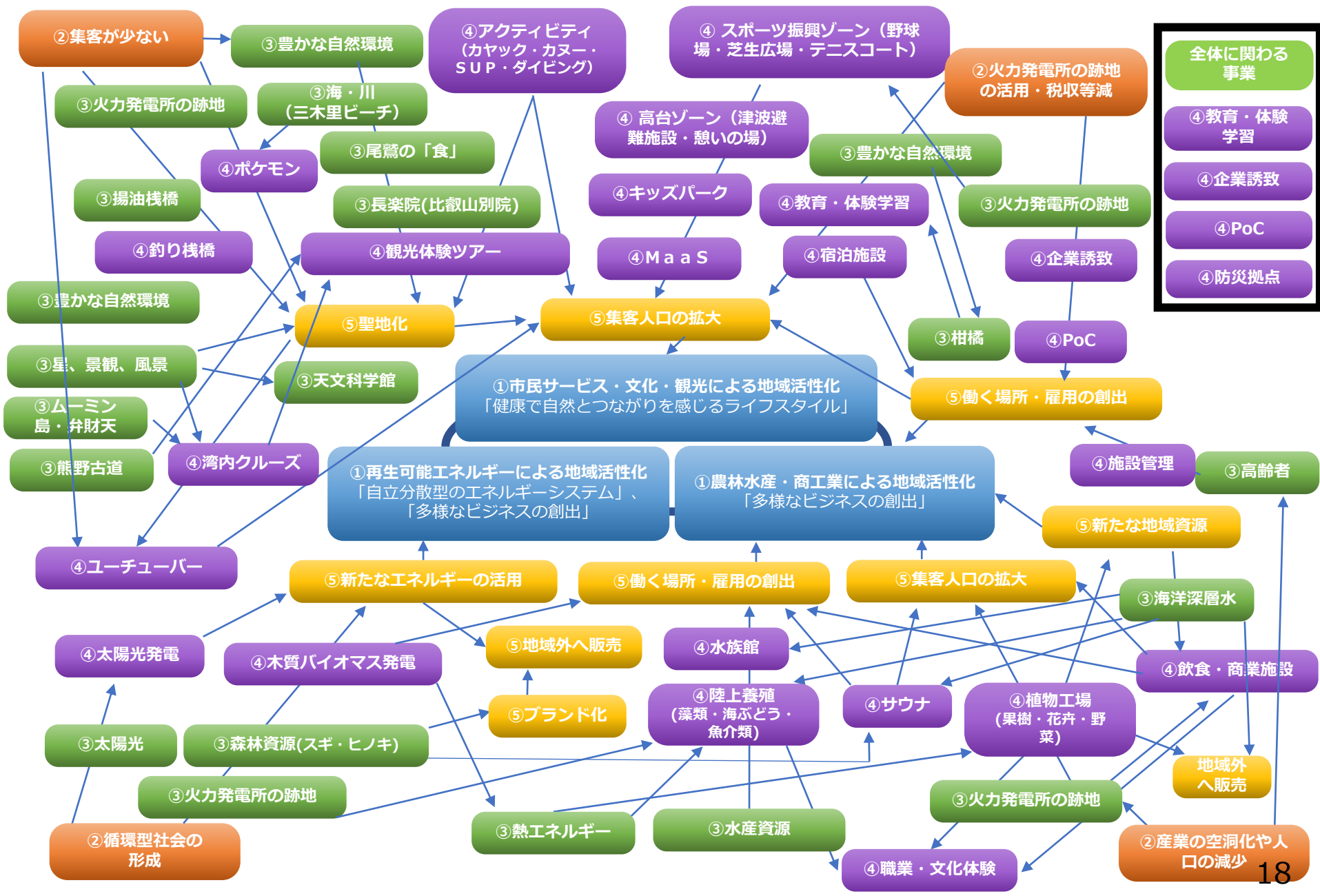
（エリア2：第1ヤード）



（エリア3：第2ヤード）

E 施設	施設の概要
木質バイオマス発電	地域の未利用エネルギーを活用した地産地消型電源
太陽光発電施設	太陽光発電
A 施設	施設の概要（検討協議中）
陸上養殖施設	魚介類養殖施設
植物工場	園芸（果樹・野菜・花卉）農業生産施設

地域循環共生圏の実現による**明るい未来の尾鷲**



PJ-S アクティビティの取組について

海の拠点ゾーンに係る取組について

(エリア1：発電所ヤード)



尾鷲市の自然の特徴

尾鷲市は、西に大台山系、東に黒潮踊る熊野灘という、自然豊かな海と山に囲まれたまちです。

しかし、そもそも日本は、海に囲まれた島国です。

全国のいたるところに自然豊かなエリアは存在しています。

そんな全国の自然豊かなエリアにも負けない、**尾鷲市独自の自然の魅力**とは一体なになのか？

それは・・・

尾鷲市の自然の特徴

尾鷲市の自然の特徴は、**海と町と山の距離が圧倒的に近い**ということです。



天狗倉山からの尾鷲湾



天狗倉山から市街地を望む



三木浦町、三木埼のリアス海岸



曽根町浄の城からの賀田湾

尾鷲市のアクティビティMAP



例えば、三方を山で囲まれた市街地の最高峰の高峰山までは、尾鷲港から直線距離でわずか7 km。

海拔0mから1000mまでがこれほど近い関係にあり、そのなかに市街地が存在しているという立地です。

また、市を縦断するように世界遺産熊野古道がとおるほか、市全域に他所にはない個性的なまちなみやフィールドが広がっています。

尾鷲市の自然アクティビティ 世界遺産「熊野古道」

熊野古道は、**熊野三山（熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社）**に詣でるための**道**です。世界遺産として登録されている「紀伊山地の霊場と参詣道」を構成する参詣道のひとつ、熊野参詣道の通称です。

尾鷲市には、**4つのコースの峠道が世界遺産として登録されています。**



馬越峠（まごせとうげ）



八鬼山（やきやま）



曽根次郎坂・太郎坂（そねじろうざか・たろうざか）



三木峠・羽後峠（みきとうげ・はごとうげ）

尾鷲市の自然アクティビティ 馬越峠～天狗倉山



尾鷲市の自然アクティビティ 馬越峠～天狗倉山



尾鷲市の自然アクティビティ 三木埼 盛松遺跡



- 盛松集落跡
1601年の検地では27戸と記録されている。
水も少なく、電気もないことから、昭和2年～3年までに三木浦町に全戸移住。



尾鷲市の自然アクティビティ 梶賀町 梶賀峠



- 梶賀峠
尾鷲市曾根町から梶賀町に
抜ける山道で、「曾根道」
ともいわれる。
随所に賀田湾が一望できる。



尾鷲市の自然アクティビティ 九鬼町 オハイ浜



- ・九鬼町オハイ浜
尾鷲市九鬼町の九木崎原生林の
ブリの群れを見張っていた「魚見
小屋」近くの浜。
断崖絶壁からの浜の色は「オハイ
ブルー」と呼ばれる。

新たな「アクティビティ」としてのプログラムづくり

尾鷲市では、平成30年度から、これまでの豊かな自然と、浦々の魅力をいかしたウォーキングだけでなく、自然環境、立地を生かした**新たなアクティビティとしてのプログラムづくり**を展開しています。

◎平成30年度～

【三重大大学自然環境リテラシー学との連携】

三重大大学では、平成30年度から、生物資源学部において「自然環境リテラシー学」という実感・実践型のアウトドア教育を開始しており、豊かな自然環境を総合的に理解する能力を身につけ、理解したことを地域内外の人々にわかりやすく正しく伝達・魅力を発信し、自然環境を楽しみ、守り、持続的に保護していく、責任のある行動をとれる人材育成を進めています。

三重大大学と連携することで、自然環境リテラシー学で学んだ大学生を核として、尾鷲の自然が地域にもたらす産業的役割、海や森林の多面的機能、国土保全、環境保全などを織り込んだ体験プログラムにより「見える化」し、広く伝達（PR）することができます。

三重大大学自然環境リテラシー学を、尾鷲市の自然体験アクティビティの取り組みと連携させ、民間団体・地域・大学・行政が一体となり、教育効果を踏まえた尾鷲市独自のプログラム開発と、それを運用する人材、組織づくりを行っています。

新たな「アクティビティ」としてのプログラムづくり

◎令和元年度

【第18回トム・ソーヤスクール企画コンテスト】

- ・主催：公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団
- ・受賞：尾鷲市立宮之上小学校3年生

「僕らのあそび場づくり ～山育・木育・おわせ行く～」

※推奨モデル特別賞受賞プログラム

令和元年度には、尾鷲市宮之上小学校の3年生が、公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団の「トム・ソーヤスクール企画コンテスト」に応募する形で、尾鷲市の市有林にて「山のプログラム」づくりに取り組みました。

【趣旨】

今は危険だからという理由で、子どもたちの自然を体験、実感する機会が激減しており、また自然の楽しさ、魅力、遊び方などを教えられる大人も少なくなっている。

それは、豊かな自然に恵まれた尾鷲市でも例外ではない。こうした時代に、子どもたちがあそび場をつくる過程を通して、生きる力の向上、自己肯定感、達成動機の向上につなげるとともに、危機管理能力を身につけることを目的とし活動を行った。

新たな「アクティビティ」としてのプログラムづくり

「僕らのあそび場づくり ～山育・木育・おわせ行く～」

※推奨モデル特別賞受賞

■ 企画内容

『学びの楽しさ（木育・山育）』：下草を刈る、作業道をつくる、間伐を行う。
『遊びの楽しさ（あそび場づくり）』：スラックライン、スポンジ銃サバイバルゲーム、森の読書、ハンモックリラクゼーションなど

■ 実施期間 2019 年6 月20 日（木）～10 月10 日（木）計5 回

■ 実施場所 三重県尾鷲市大字南浦八鬼山 八鬼山市有林

■ 企画の特徴

「総合的な学習の時間」を活用し、世界遺産熊野古道「八鬼山」の市有林において活動を行った。

自然の中で遊びながら、PDCAサイクルを回すこと、ハウレンソウ（報告・連絡・相談）により情報共有をすること、わからないことは、わかる人に尋ねることなどを指導するプログラムとし、教えるのではなく「観察する」こと、「相談する」ことを促すプログラムに意識して取り組んだ。

また、サバイバルゲームやスラックラインでは子どもたちは、遊びながら山の中での動き方を体得していき、そして、最終回の森の読書会、ハンモックリラクゼーションでは、読書は部屋の中だけではないこと、森の中で過ごす時間がこんなにも豊かであることを体感することができた。

新たな「アクティビティ」としてのプログラムづくり



上：森林でのサバイバルゲーム
＝敵・味方にわかれ、スポンジ銃
で対戦する。

下：スラックライン
＝5センチ程度のベルト状のライン
を木と木の間に張り、その上を綱
渡りのように移動して遊ぶ。

新たな「アクティビティ」としてのプログラムづくり



上左：間伐体験

= 尾鷲ヒノキ林業の特徴である
密植多間伐を体験する。

上右：ハンモックリラクゼーション

= 森林の持つ豊かさを体感するために
ハンモックでリラクゼーションする。

下：森の図書館

= 森林の中での読み聞かせを行い、癒
しと学びの空間づくりを行う。

新たな「アクティビティ」としてのプログラムづくり

◎令和2年度

【第19回トム・ソーヤスクール企画コンテスト】

- ・主催：公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団
- ・受賞：尾鷲市立矢浜小学校4年生

「僕らのあそび場づくり ～川育・雨育・おわせ行く～」

令和元年度の宮之上小学校3年生の「山のプログラム」づくりに引き続き、令和2年度では、矢浜小学校4年生が、「**川のプログラム**」づくりに取り組みました。

【趣旨】

昨年の第1弾では、「山育・木育・おわせ行く」として、市有林でのあそび場づくりを通した子どもの成長プログラムを実施したが、今年は山育、木育を踏まえたうえで、「川育・雨育」として、尾鷲市の水源である矢ノ川と、昨年度日本一の降水量を誇る尾鷲の雨を研究することで、**山、川、海のつながりと雨の恵みを学び**、あそび場づくりを通した子どもたちの自主性、自立性、自己肯定感をはぐくみ、あそびの中でPDCAサイクルを回しながら、自然に入るための危機管理、情報共有能力を身につける活動プログラムづくりを行った。

新たな「アクティビティ」としてのプログラムづくり

「僕らのあそび場づくり ～川育・雨育・おわせ行く～」

■ 企画内容

矢ノ川上流部～中流～下流の周辺調査

○矢ノ川上流：「デンガラの滝」あそび

○矢ノ川中流：尾鷲の子どもたちの川遊びの聖地「どん淵」で川ガキ体験

○矢ノ川下流：黒の浜と矢ノ川の境目を探す

※雨の観察：手作りのペットボトル雨量計により雨量の調査を行う。

■ 実施期間 2020年6月23日（火）～10月13日（火）計5回

■ 実施場所 三重県尾鷲市大字南浦 矢ノ川周辺

■ 企画の特徴

「総合的な学習の時間」を活用し、急峻な山々に降り注いだ雨は、大台山系のミネラルを十分に含んで、川を通り尾鷲の海に流れるという尾鷲ならではの自然の地形を生かした学習を行った。

山から流れ出た水は川を通り、海に流れこむ。海の境目の養分豊富なエリアではたくさんの魚が生息して、天然の良港を形成する。

また、尾鷲市の水源である矢ノ川から取水される水道水は、山に降り注いだ雨が山にしみこみ、伏流水となり、長い年月をかけて自然浄化されて矢ノ川に流れたものである。こうした雨、川、海、山の豊かな関係性を、あそび場づくりを通して学んだ。

新たな「アクティビティ」としてのプログラムづくり

矢ノ川上流：「デンガラの滝」あそび



矢ノ川上流までは、ロープを使い、安全確保を行いながら進んでいく。最上流部には、水源の源流となるデンガラの滝があり、滝あそびを行った。



新たな「アクティビティ」としてのプログラムづくり

矢ノ川中流：尾鷲の子どもたちの川遊びの聖地「どん淵」で川ガキ体験



矢ノ川中流のどん淵では、流れに流れさせてみる体験を行い、ライフジャケットを着用することの大切さを学んだ。
そして、全員が勇気を出して大岩からの飛び込みを行った。

新たな「アクティビティ」としてのプログラムづくり

矢ノ川下流：黒の浜と矢ノ川の境目を探す



矢ノ川下流の黒の浜では、海水と川の水の境目をカヤックを漕ぎながら調べていった。

境目となる汽水域では、「ゆらゆら帯」といわれる混ざり合う場所を観ることができた。折しも撤去が進む中部電力の横をカヤックで漕いでいった。



新たな「アクティビティ」としてのプログラムづくり

◎令和2年度 **プログラムの横展開** ～市内全5小学校での体験～

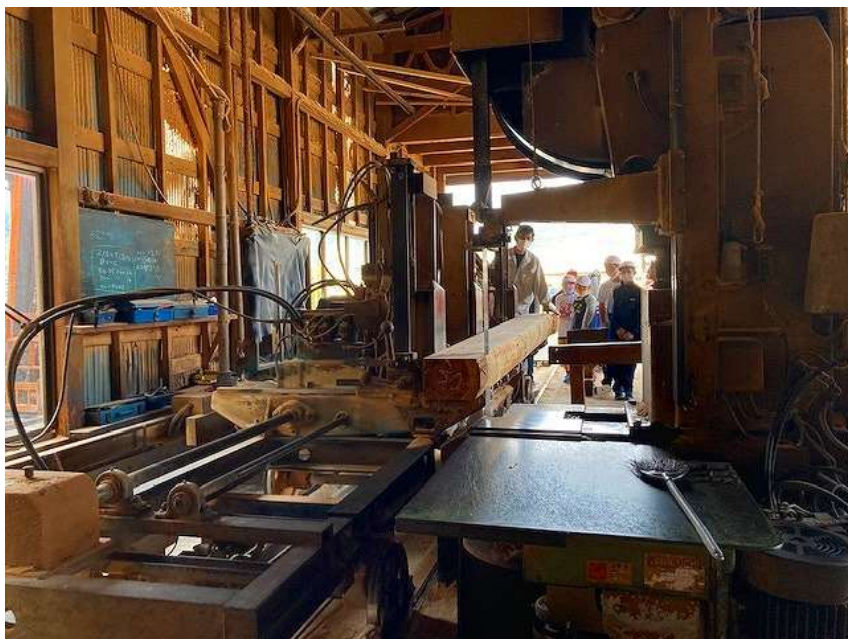


令和元年、2年に開発した「山のプログラム」、「川のプログラム」を、**市内の5つの小学校**にて、遠足や、社会見学、総合学習などの授業に位置づけ、それぞれ希望の体験を実施した。



新たな「アクティビティ」としてのプログラムづくり

◎令和2年度 プログラムの横展開 ～市内全5小学校での体験～



また、**尾鷲市林業振興協議会**と連携することにより、「山のプログラム」に、木材市場～製材～プレカット加工場の見学をセットし、**業界も連携した林業の学びの仕組みを構築**した。

新たな「アクティビティ」としてのプログラムづくり

◎令和2年度 プログラムの横展開 ～大人の週末の自然体験として～



さらには、**教育関係者や一般の方など、社会人の体験もはじまっており**、三重大学と子どもたちが構築したプログラムの横展開が進んでいる。

新たな「アクティビティ」としてのプログラムづくり

◎これから取り組みについて

山のプログラム、川のプログラムのあとは**海のプログラムを、三重大学の学生らと開発をする。**

また、そのプログラムを尾鷲の子どもたちに体験させ、尾鷲の自然を学び遊ぶ中で、自己肯定感を身につけることのできる教育プログラムとして深化させていく。

さらには、このプログラムを「**ウイズコロナ**」の観点も踏まえて、**県内外の教育旅行の誘致、一般の観光としてのアクティビティにつなげていく。**

【今後の課題】

- **おわせS E Aモデル構想との連動（起点としての跡地活用）**
- プログラムを実践していくための**拠点づくり**
- 持続的に取り組み、また地域の経済活動につなげていくための核となる**実践者の誘致**
- 市内各浦々やまちなかへの誘客の仕組みづくり
- **県内各市町との自然体験アクティビティ動線・関係づくり**

ご清聴ありがとうございました。

